

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査及び情報提供委託事業)

森脇和也・安木 茂

1. 研究目的

近年、大型クラゲが本県をはじめとして日本沿岸に大量に来遊し大きな漁業被害を与えている。そこで、その出現状況を、調査船「島根丸」、漁業取締船「せいふう」による洋上調査、操業漁船からの聞き取り調査等により把握し、漁業関係者に迅速に情報提供を行い漁業被害の低減に努める。

2. 研究方法

(1) 洋上分布調査

平成 24 年 7 月 23 日～25 日および 8 月 20 日～22 日に隠岐諸島東方～対馬西方海域の 19 定点において、調査船「島根丸」により LC ネットを使用して大型クラゲを採集した。採集したクラゲは個体数、傘径または感覚器官の間隔を測定した。

(2) 洋上目視調査

①調査船「島根丸」

7 月 30 日～31 日及び 11 月 29 日～30 日の計 2 回、島根県沖合において、船上から目視による調査を実施した。調査は定点から 2 マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視された大型クラゲを計数した。

②漁業取締船「せいふう」

7 月～11 月の間の全航海において、昼間に実施した。調査は船橋上両舷から、目視された大型クラゲを計数した。

(3) 陸上調査

漁業協同組合 JF しまねからの来遊状況の聞き取り調査と、入網状況について標本船調査を実施した。聞き取り調査は、平成 24 年 8 月～12 月まで実施した。標本船調査は、定置網漁業 4 ケ統に 8 月から 12 月まで、沖合底びき網 7 ケ統に 8 月から 12 月まで、小型底びき網漁船 3 隻に 9 月から 12 月まで

の期間、それぞれ操業ごとの入網数（底びき網漁業にあつては操業位置および入網数）、大きさ、被害状況、対策実施の有無について記入を依頼した。

3. 研究結果

(1) 洋上分布調査

7 月の調査ではエチゼンクラゲは発見されなかったが 8 月の調査では 4 個体を採集、また、航行中の目視調査（昼間のみ）で 13 個体が確認された。

(2) 洋上目視調査

「島根丸」および「せいふう」による調査では全く目視確認できなかった。

(3) 陸上調査

①定置網漁業標本船

8 月下旬に入網が始まり、9 月下旬から 10 月上旬にかけて入網数が増加した。その後は減少し、11 月上旬にはほぼ収束した。前年に比べ入網数は多く、合計で 464 個体の入網があったが、漁業被害はほとんどなかった。

②小型底びき網漁業標本船

9 月上旬から入網が始まり、11 月上旬まで散発的に 1～6 個体の入網があり、合計で 437 個体の入網があったが漁業被害の報告はなかった。

③沖合底びき網漁業標本船

8 月中旬から 890・900・991 農林漁区で入網が始まり、9 月上旬から 10 月中旬にかけて入網数が増加し、最大で 1 曳網当たり 30 個程度入網した。10 月中旬以降は徐々に減少し、11 月下旬にはほぼ収束した。合計で 9,061 個体の入網があったが漁業被害の報告はなかった。(調査結果の詳細は、本報告書「平成 24 年度の大規模クラゲ出現状況を参照のこと」)